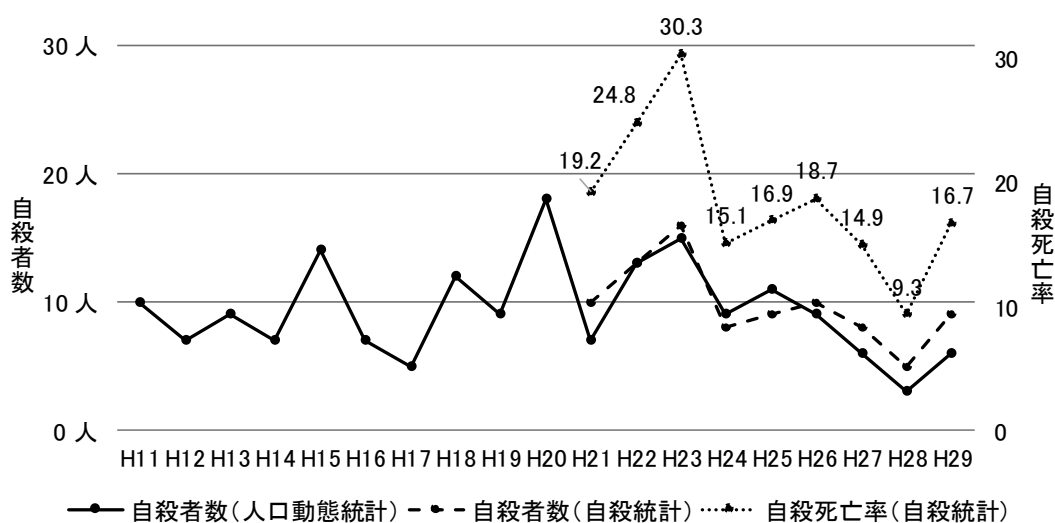


## 第2章 岩出市における自殺の現状

### 1. 自殺者数と自殺死亡率の推移

人口動態統計では、自殺者数は平成11年から平成29年に減少しています。自殺統計では、自殺者数は平成21年から平成23年にかけて増加して、その後、減少しています。自殺死亡率は平成21年の19.2から平成23年の30.3まで増加し、平成29年には16.7まで減少しています。

自殺者数、及び自殺死亡率(人口10万対)



注)自殺死亡率は、人口10万人に対する自殺者数。(以下、同様)

注)平成20年以前の「自殺者数(自殺統計)」はデータが公表されていない。

資料)厚生労働省「人口動態統計」、厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

#### 「自殺統計」と「人口動態統計」との違いについて

自殺の統計として「警察庁の自殺統計原票を集計した結果(自殺統計)」と「厚生労働省の人口動態統計」の2つがあります。「自殺統計」と「人口動態統計」では、以下のとおり調査対象等に違いがあります。

##### ①調査対象による差異

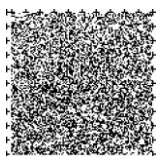
「自殺統計」は、総人口(日本における外国人も含む)を対象としているのに対し、「人口動態統計」は日本における日本人を対象としています。

##### ②調査時点の差異

「自殺統計」は、発見地を基に自殺死体発見時点(正確には認知)で計上しているのに対し、「人口動態統計」は住所地を基に死亡時点で計上しています。

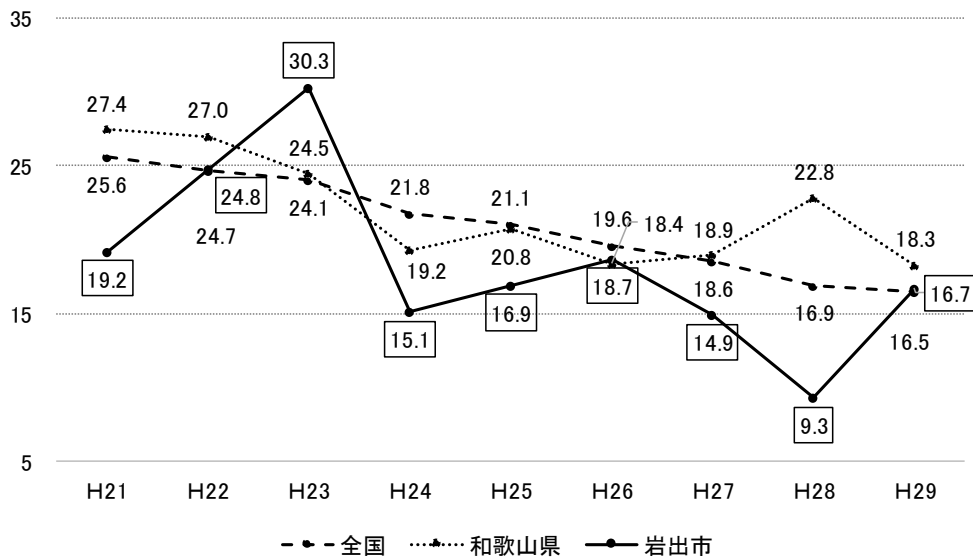
##### ③事務手続き上(訂正報告)の差異

「自殺統計」は、捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上しているのに対し、「人口動態統計」は自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上していません。



自殺死亡率について、全国・和歌山県と比較すると、本市は、平成 21 年から平成 29 年において、平成 23 年を除き、全国・県と同水準または低く推移しています。

自殺死亡率(全国、和歌山県、岩出市)



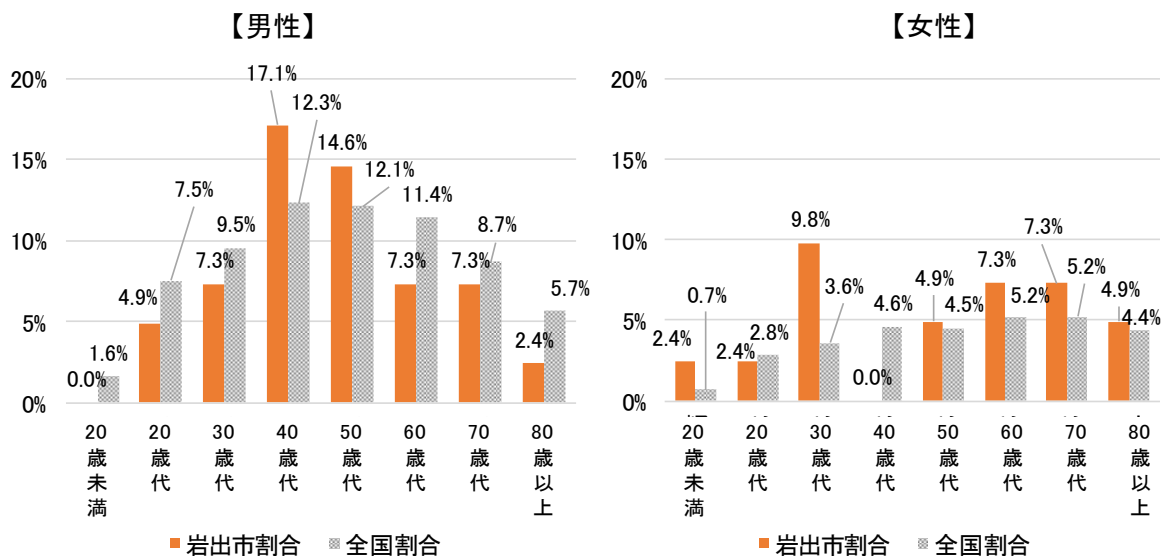
資料)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

## 2. 性別、年代別自殺者割合

性別、年代別に自殺者割合をみると、男性は 40 歳代、50 歳代、女性は 30 歳代、60 歳代、70 歳代が高くなっています。

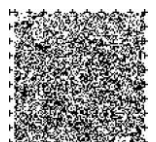
全国と比較すると、男性の 40 歳代、50 歳代、女性の 20 歳未満、30 歳代、50 歳代以上のすべての年代で、本市が全国より高くなっています。

性別、年代別自殺割合(H25~H29)



注)自殺者割合は、平成 25 年から平成 29 年における全自殺者に占める割合を示す。(以下、同様)

資料)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

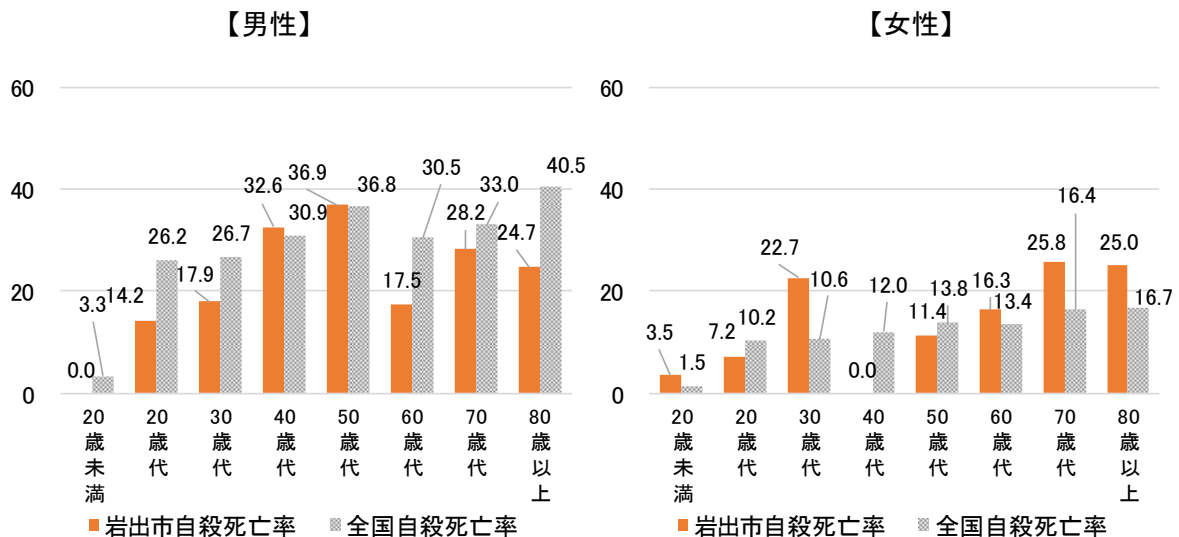


### 3. 性別、年代別自殺死亡率

性別、年代別に自殺死亡率をみると、男性は40歳代、50歳代、70歳代、女性は30歳代、70歳代、80歳以上が高くなっています。

全国と比較すると、男性の40歳代、50歳代、女性の20歳未満、30歳代、60歳以上のすべての年代で、本市が全国より高くなっています。

性別、年代別自殺死亡率(人口10万対、H25～H29)



注)平成25年から平成29年における各年代の合計値の自殺死亡率。

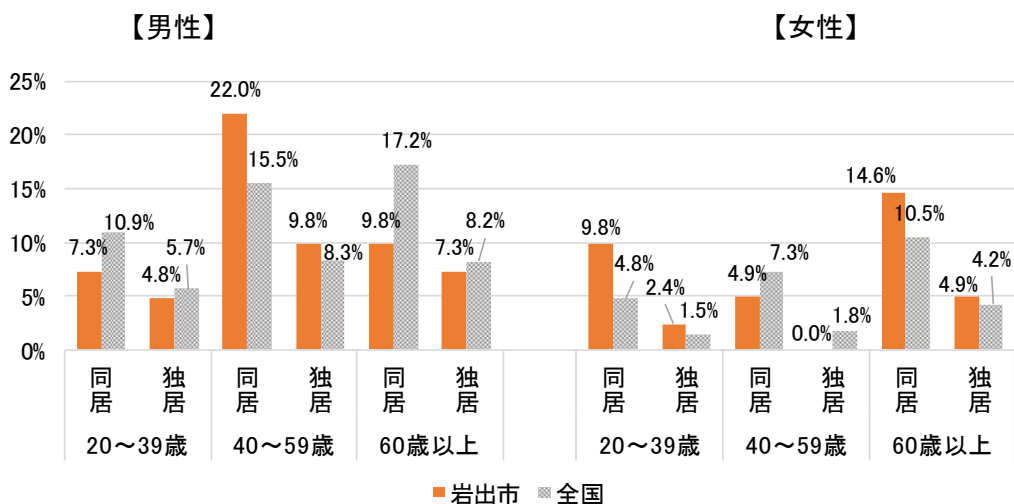
資料)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

### 4. 性別、年代別、同居の有無別の自殺者の割合

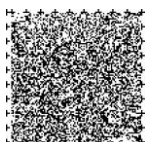
性別、年代別、同居の有無別の自殺者の割合をみると、男性は40～59歳の同居、女性は60歳以上の同居が高くなっています。

全国と比較すると、男性の40～59歳の同居、独居、女性の20～39歳の同居、独居、60歳以上の同居、独居で、本市が全国より高くなっています。

性別、年代別、同居の有無別の自殺者の割合(H25～H29)



資料)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」 6

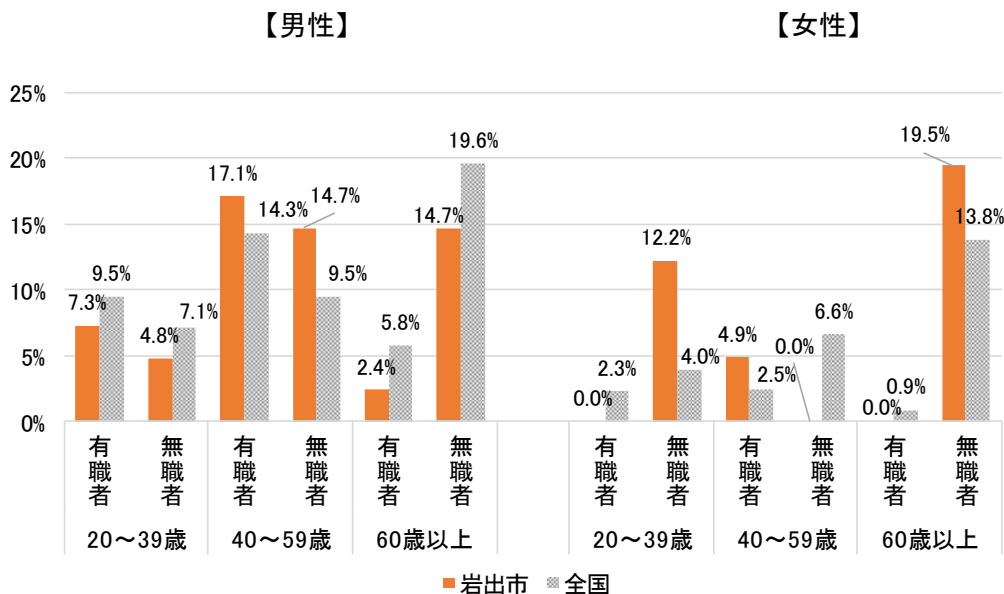


## 5. 性別、年代別、職業の有無別の自殺者の割合

性別、年代別、職業の有無別の自殺者の割合をみると、男性は40～59歳の有職者、女性は60歳以上の無職者が高くなっています。

全国と比較すると、男性は40～59歳の有職者、無職者、女性は20～39歳の無職者、40～59歳の有職者、60歳以上の無職者で、本市が全国より高くなっています。

性別、年代別、職業の有無別の自殺者の割合(H25～H29)



資料)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

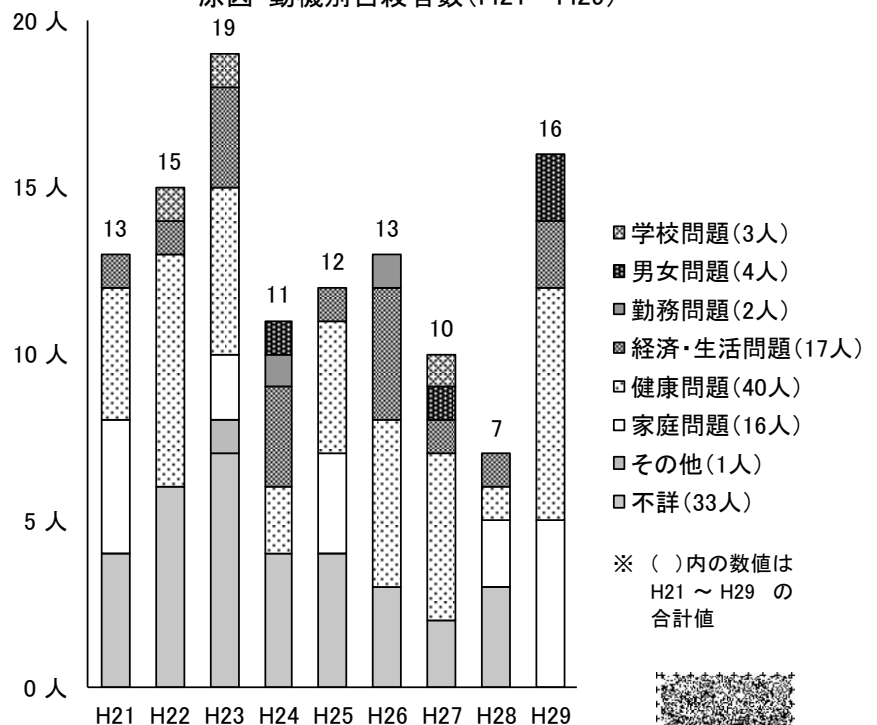
## 6. 原因・動機別自殺者数

自殺の原因・動機についてみると、平成21年から平成29年においては、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」となっていますが、自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きています。一概に単一の原因・動機によるものではありません。

### ■本データの留意点

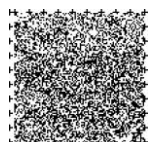
遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上することとしているため、各年の原因・動機別の和と全ページの各年自殺者数合計とは一致しません。

原因・動機別自殺者数(H21～H29)



- 学校問題(3人)
- 男女問題(4人)
- 勤務問題(2人)
- 経済・生活問題(17人)
- 健康問題(40人)
- 家庭問題(16人)
- その他(1人)
- 不詳(33人)

※ ( )内の数値はH21～H29の合計値



## 7. 岩出市における自殺の特徴

性別、年代別、同居の有無別、職業の有無別の自殺者数をみると、「女性 60 歳以上 無職 同居」、「男性 40～59 歳 有職 同居」「男性 40～59 歳 無職 同居」が多くなっています。

上位5区分(順位) ※H25～29の自殺者数の合計値による順位		【参考】 自殺死亡率 (10万対)
1位	女性 60歳以上 無職 同居	23.1
2位	男性 40～59歳 有職 同居	16.4
3位	男性 40～59歳 無職 同居	223.1
4位	女性 20～39歳 無職 同居	28.1
5位	男性 60歳以上 無職 同居	24.7

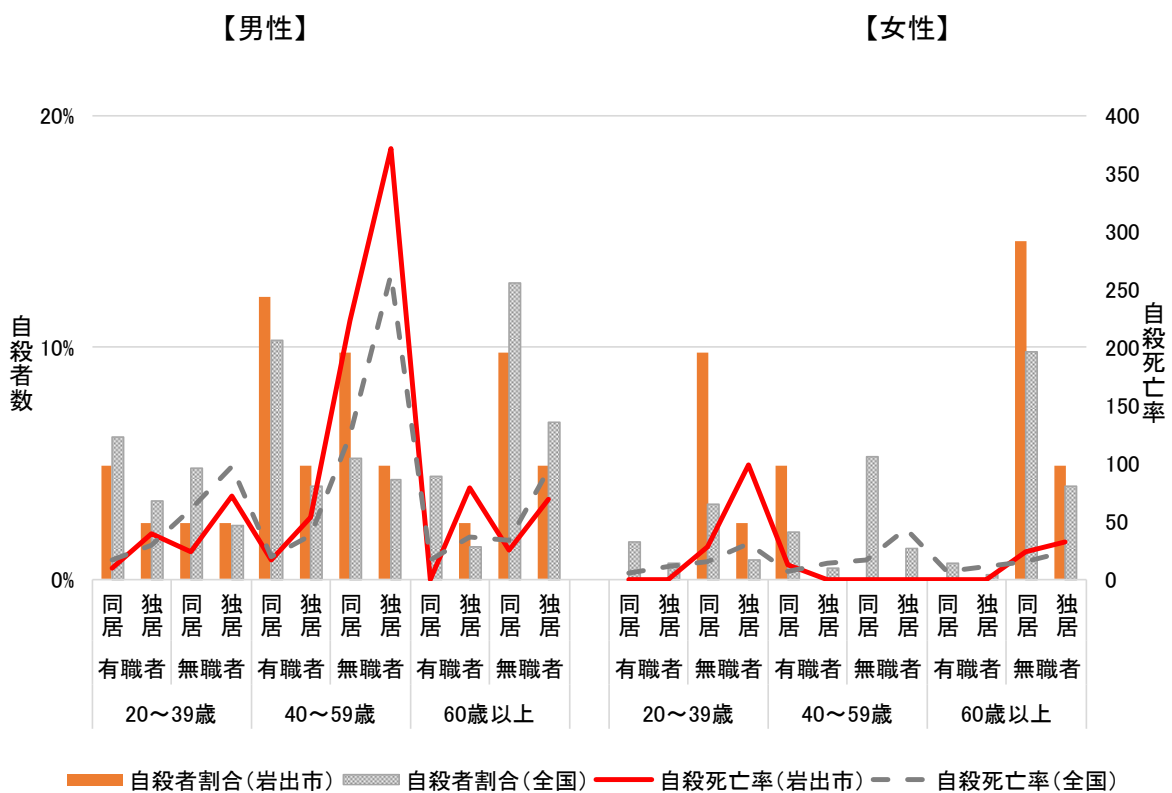
注)自殺者数はH25～29の合計41人(男性25人、女性16人)(自殺統計(自殺日・住居地))

注)順位は自殺者数の多さに基づき、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

注)自殺死亡率の母数(人口)は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

資料)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

性別、年代別、職業の有無別、同居の有無別の自殺者の割合(H25～H29)



資料)自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール(2018)」

